

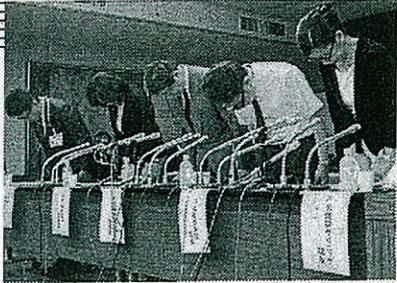
肺ガン検診で三度の見落としも 自治体格安検診に気をつけろ

自治体が市民の健康増進のために行っている各種検診。無料か少額の自己負担で受けられるが、杜撰な検査で重病が見落とされる恐れもある。

七月には杉並区の河北健診クリニックで実施された肺ガン検診で、三度にわたってガンを見落とし、四十代の女性が死亡したことが発覚した。

「亡くなった女性は二〇一四年、五年に勤務先の保険組合の検査を同病院で受診したが、クリニックの医師は『異常なし』と判定してしまった。今年一月にも四十歳以上であれば五百円と格安な区の検診を受診するも、読影（画像診断）の専門医が不在のまま診断された。悪化を辿っていた。病変はこの時も見過ごされてしましました」

（社会部記者）また驚くべき事実も。



謝罪する河北健診クリニック

「同病院で一四年以降区の肺ガン検診を受けた九千四百二

十四人のX線画像を放射線科医が再度調べた結果、四十四人に精密検査が必要との判定が下った。うち二十七人に肺癌の可能性がある」（同前）

同病院での区の肺ガン検診は粗雑なものだったという。

「年間約五千人があの病院で検診を受けています。一日に一人の医師でレントゲンを何十枚と読影する必要があり、現場には一枚一枚丹念に見る余裕などはなかつたはず。さ

らにクリニックでは放射線の診断専門医が慢性的に不足しています」（病院関係者）

病院を経営する河北医療財団の河北博文理事長は、今年一月の『見落とし』について、こう説明する。

「専門の画像診断医でなかったことは本当に申し訳なかつた。個々の医師の診断能力の問題もありましたが、一時に数十枚の胸の画像を読影することもある。なので判断で流れてしまつた部分もあったた

のではないかと思っています」

医療問題に詳しい石黒麻利子弁護士（医学博士）はこうアドバイスする。

「自治体の集団検診はあくま

で全体の死亡率を下げるこ

とが目的です。医療裁判でも集

団検診について『医師の注意義務には限界がある』との判

例があり、もし訴訟になつて

も勝訴できる可能性は低いの

が実情です。レントゲンだけ

では病変がうまく写らないケ

ースもあり、CTやMRIなど

を用いて複合的に診断する

人間ドックを定期的に受診す

ることをお勧めします」

この機に自分が受けている

検診をチェックしてみては。